

## マッチングシステムの活用による個別最適なアスリート環境の能動的構築支援

### 解決したい課題

#### 誰の？（具体的に）

ますます競技レベルが高まるパラスポーツ界において、今まさにアスリートキャリアを築かんとしている難民パラアスリートと、将来のパラアスリートの卵（ジュニア層）。

#### どのような課題？

東京パラ五輪における難民選手団のメダル獲得数はゼロ。パラスポーツはその特殊性故に、サポート面や練習環境の差がより顕著に結果に影響するようになった。難民パラアスリートを取り巻く環境が、近年の急速な競技力向上に対応できず、取り残されてしまうのではないかと懸念。

### 解決方法

#### どのように解決するか？

##### ✓ 打ち手：

「難民パラアスリート(の卵も含む)」と、様々な「支援者」を繋ぐ**マッチングシステム**(統一的なオンラインプラットフォーム)の構築。

##### ✓ コンセプト：

ナポレオンの“環境は自分で創り出すもの”という名言に影響を受け、難民パラアスリート個人レベルで**マッチングシステム**を活用し、**自らの手で個別最適な理想的アスリート環境を創出**できるようになることを目指す。

##### ✓ 詳細：

##### ➤ 難民パラアスリート(の卵も含む)側

・障がいの部位や競技種目などの情報、支援のニーズを登録

##### ➤ 支援者側

・提供できる支援のシーズを登録

→これらの情報はリスト化し、検索機能による手動的なマッチングや、AIを用いたマッチングを想定。

#### 斬新なポイントはなにか？

- 1対1のマッチング形式をとることで、パラアスリート支援の重要なファクターである“**個別的**”な課題をカバーしている点
- 現役パラアスリートだけでなく、**ジュニア層の発掘**など未来のパラアスリート支援にも貢献している点
- 難民支援でよく見かけるような単なる募金活動に留まらず、一般人が自分にできる支援を考えるきっかけになり、**自分事として難民問題を捉える**機会の創出に繋がる点

# マッチングシステムの活用による個別最適なアスリート環境の能動的構築支援

## ★ 能動的環境構築を支援するためのオンラインプラットフォーム

検索機能やAIを用いて「1対1」でマッチング

難民パラアスリート(の卵)

障がい部位や競技種目、支援のニーズを登録  
→リスト化



支援者(誰でも)

提供できる支援のシーズを登録  
→リスト化

### 【マッチングシステムで期待される波及効果】

- ◆ スポーツを入り口とした人的・経済的・文化的な相互交流の促進  
(例:五輪終了後の共生社会ホストタウン活動の継続化への貢献)
- ◆ 情報技術の活用により、途上国のデジタル化への貢献

(留意点)

- パラアスリートのマネジメント力や競技への専念という観点から、分業化など負担軽減の措置も必要
- マッチング後に事が円滑に進むように各種制度整備が必要

- 指導者  
(支援例:元パラリンピアンからのオンライン指導)
- 技術者  
(支援例:競技用車イス、義手・義足等のオーダーメイド)
- 法人  
(支援例:スポンサー契約、資金的援助)
- 科学者や研究者  
(支援例:スポーツ科学を取り入れた練習)
- 一般人  
(支援例:応援エール、交流、??)

など